

安永九
九日の

官
刻
孝義錄

卷廿五

出羽

9
1596
25

3
4
5
6
7
8
9
50
1
2
3
4
5
6
7
8
9
60
1
2
3
4
5
6
7
8
9
70
1
2
3



安永九年一月廿九日の誤り?



1596
卷 25

○孝義録卷之二十五

孝行出羽國

奇特者 代官支配所 村山郡蟹浜村

孝行者 同支配所 置賜郡赤浜村

奇特者 同支配所 村山郡尾花津村

孝行者 同支配所 村山郡楠南村

孝行者 同支配所 村山郡清野村

○奇特者 同支配所 村山郡大蔵村

孝義録卷之二十五

247
73

各主

百姓平七伴

百姓

百姓孫船妻

百姓

百姓

阿部彦四郎

平八歳

安永元年 沖寝

與七

五十歳

安永九年 沖寝

柴本清孫左衛門

四十一歳

天明元年 沖寝

重吉

二十七歳

天明二年 沖寝

稻村七郎左衛門

四十九歳

寛政四年 沖寝

稲村七郎左衛門

六十九歳

寛政五年 沖寝

孝行者

上松澤正太郎以預所
置賜於上和田村

百姓

奇特者

同領所
村山新大石田村

百姓

奇特者

同領所
置賜於中和田村

百姓

孝行者

依行在東京大支領分
河邊於平島村

百姓

孝行者

同領
山本新徳代町

町人

孝行者

同領
久保田城下十人裏町

町人

孝行者

同領
久保田城下田中町

町人

○孝行者

同領
雄勝於中村

百姓

孫助

明和二年
行徳矣

土屋作之助

安永九年
行徳矣

年 庄 封

天明六年
行徳矣

岩次右衛門

宝曆四年
行徳矣

萬之助

宝曆十二年
行徳矣

六之助

明和二年
行徳矣

清玄清

明和二年
行徳矣

久右衛門

明和二年
行徳矣

孝行者

同領
久保田城下米沢町

町人借至住

孝行者

同領
久保田城下中門口町

町人

孝行者

同領
秋田於下杉村

百姓

孝行者

同領
本鹿於上溝村

百姓

孝行者

同領
久保田城下馬口町

町人

孝行者

同領
仙北於角館東前郷村

百姓

孝行者

同領
仙北於新谷地村

百姓

孝行者

同領
家本

足輕

孫助

明和二年
行徳矣

土屋作之助

安永九年
行徳矣

年 庄 封

天明六年
行徳矣

岩次右衛門

宝曆四年
行徳矣

萬之助

宝曆十二年
行徳矣

六之助

明和二年
行徳矣

清玄清

明和二年
行徳矣

久右衛門

明和二年
行徳矣

市之助

明和二年
行徳矣

久之助

明和二年
行徳矣

專之助

明和三年
行徳矣

市右衛門

明和四年
行徳矣

市之助

明和六年
行徳矣

七之助

明和六年
行徳矣

久作

明和六年
行徳矣

小姓寺和助

明和七年
行徳矣

孝行者

同領 秋田郡吉田村枝郷中野村

五田百姓

龜松

明和八年

孝行者

同領 山本郡友琴村

五田百姓

安七

安永二年

孝行者

同領 秋田郡花巻村枝郷棚田村

百姓

巳之助

安永三年

孝行者

同領 仙北郡駒場村

百姓

与次郎

安永三年

孝行者

同領 秋田郡土崎湊新城町

町人

長

安永三年

孝行者

同領 秋田郡野内村

百姓

三太郎

安永五年

孝行者

同領 山本郡法代町

醫者

拍木

安永八年

孝行者

同領 同所

三長好

津

同時

孝行者

同領 同所

同妹

孝行者

同領 仙北郡角館岩瀬町

町人

三子

同時

孝行者

同領 山本郡上岩川村枝郷二本松村

百姓

多氣清

安永九年

孝行者

同領 仙北郡坂見内村

百姓

赤之助

天明元年

孝行者

同領 仙北郡駒場村枝郷横塚村

百姓

本之助

天明二年

孝行者

同領 山本郡法代町

町人

彦左衛門

天明二年

孝行者

同領 同所

吟彦好

吟彦

天明三年

孝行者

同領 河邊郡女木村

百姓

万吉

天明三年

奇特者 同領 雄勝郡小野村

奇特者 同領

孝行者 同領 家系

孝行者 同領 秋田郡真板村

孝行者 同領 河邊郡舟屋村枝郷野内村

孝行者 同領 羊鹿郡田村

孝行者 同領 家系

孝行者 同領 河邊郡牛島村

百姓山三郎次男

正 孫 天明四年 慶長

同娘

人 同時 慶長

坂口孫玄清 天明六年 慶長

百姓

市太郎 天明七年 慶長

無田百姓

平 慶長元年 慶長

田玄清 寬政元年 慶長

百姓

嵯峨玄有 寬政元年 慶長

足輕

長田郎 寬政元年 慶長

孝行者 同領 秋田郡七市村枝郷赤利村

百姓

孫 作 寬政元年 慶長

孝行者 同領 山本郡豐盛村枝郷和田村

百姓

丑 松 寬政四年 慶長

孝行者 上松彈突郡領分 置賜郡大石沢村

百姓

市三郎 享保十九年 慶長

孝行者 同領 米沢城下大町

百姓

舟山若五郎 寬保元年 慶長

奇特者 同領 置賜郡今市村

百姓

次郎玄清 寬保三年 慶長

孝行者 同領 米沢城下免許町

百姓

若原忠 享保二年 慶長

孝行者 同領 米沢城下柳町

百姓

清左衛門 享保二年 慶長

奇特者 同領 置賜於入田沢村

奇特者 同領 同所

孝行者 同領 同所

孝行者 同領 置賜於大石沢村

孝行者 同領 同所

孝行者 同領 米沢城下新桶倉町

孝行者 同領 米沢城下産院町

孝行者 同領 置賜於福田村

百姓

長七 寶曆十三年 慶長

不内 同時 慶長

長四郎 同時 慶長

安太郎 同領 元和九年 慶長

津也 同時 慶長

孫七 同領 元和二年 慶長

小太郎 同領 元和三年 慶長

孝七 同領 元和四年 慶長

百姓

安太郎

同所

長七

同所

長四郎

同所

津也

同所

孫七

同所

小太郎

同所

孝七

同所

百姓

平太 同領 元和六年 慶長

代吉 同領 同時 慶長

十一人 同領 同時 慶長

三王 同領 元和六年 慶長

半左衛門 同領 元和六年 慶長

松 同領 同時 慶長

之助 同領 同時 慶長

出八 同領 同時 慶長

家内睦者 同領 置賜於西大塚村

孝行者 同領 同所

家内睦者 同領 同所

孝行者 同領 置賜於草津村

家内睦者 同領 置賜於埴野村

家内睦者 同領 同所

家内睦者 同領 同所

孝行者 同領 同所

家内贖者 同領 同所

孝行者 同領 家来高野村在馬倉五借

孝行者 同領 置賜郡五味沢村

孝行者 同領 家来徳倉在馬倉五借

孝行者 同領 置賜郡十五村

○孝行者 同領 米沢城下免許町

○孝行者 同領 同所

孝行者 同領 置賜郡畔友村

寛平 五

初吉郎 同時 慶長

勘三郎 同時 慶長

三才郎 同時 慶長

撞左衛門 同時 慶長

小 同時 慶長

清左衛門 同時 慶長

右衛門 同時 慶長

右右衛門 同時 慶長

商人

百姓次郎在馬倉

日雇稼

百姓市太郎在馬倉

町人

百姓

百姓

勘五郎 同時 慶長

勘五郎 同時 慶長

勘五郎 同時 慶長

勘五郎 同時 慶長

勘五郎 同時 慶長

勘五郎 同時 慶長

勘五郎 同時 慶長

勘五郎 同時 慶長

百姓

久重妻

町人次郎在馬倉

百姓

百姓長作妻

六

孝行者 同領 置賜郡中村

孝行者 同領 置賜郡赤湯村

○孝行者 同領 米沢城下紺巻町

○孝行者 同領 同所

○孝行者 同領 置賜郡中山村

孝行者 同領 置賜郡埜野村

孝行者 同領 同所

孝行者 同領 置賜郡平山村

孝行者

同領 米沢城下大町

孝行者

同領 置賜郡針生村

孝行者

同領 米沢城下津屋町

奇特者

同領 米沢城下東町

○孝行者

同領 置賜郡宮村

孝行者

同領 置賜郡中小松村

奇特者

同領 置賜郡下奥田村

孝行者

同領 同所

町人

舟山吉田

安永四年

百姓

惣三郎

安永四年

町人 利左衛門

心女

安永七年

町人

小嶋孫次郎

安永七年

百姓

義三郎

安永八年

百姓

候六

安永八年

首姓

源有馬

安永八年

源吉忠孫

運六

安永八年

奇特者

同領 同所

孝行者

同領 米沢城下東町

孝行者

同領 同所

○孝行者

同領 同所

奇特者

同領 置賜郡下小松村

孝行者

同領 家来和田次右衛門

孝行者

同領 家来羽鳥重右衛門

○孝行者

同領 置賜郡大石村

町人

市七

市有馬

安永八年

市有馬妻

市有馬

同時

同娘

市有馬

同時

同娘

竹田又右衛門

安永九年

同娘

孫八

安永九年

同娘

孫八

安永九年

同娘

太次郎

安永九年

同娘

太次郎

安永九年

○孝行者 田領 置賜於西大塚村

貞良者 田領 置賜於山上村

○孝行者 田領 置賜於板倉村

孝行者 田領

奇特者 田領 置賜於草園村

奇特者 田領

奇特者 田領 置賜於中小村

孝行者 田領 置賜於中多村

百姓

太四郎 天明元年 慶長

百姓清右衛門

中川 天明元年 慶長

百姓

半十郎 天明元年 慶長

半十郎妻

志 天明元年 慶長

百姓

高世八云清 天明元年 慶長

八云清

高世次云清 天明元年 慶長

百姓

金子傳五郎 天明元年 慶長

百姓甚五郎

三郎 天明三年 慶長

百姓

弘云清 天明四年 慶長

弘云清妻

三郎 天明四年 慶長

百姓

庄云清 天明四年 慶長

庄云清娘

由人 天明六年 慶長

百姓

勘助 天明六年 慶長

勘助

右之助 天明六年 慶長

町人

後友清右衛門 天明七年 慶長

百姓

任七 天明八年 慶長

孝行者 同領 同所

孝行者 同領 置賜郡下五折村

孝行者 同領 同所

○孝行者 同領 置賜郡成野村

○孝行者 同領 酒井左馬尉領分 田川郡猪瀬村

○孝行者 同領 田川郡早田村

○負義者 同領 他海郡酒田町

○奇特者 同領 田川郡早田村

伊七妻

己 二十四歲 同時 寢矣

助右衛門 五十五歲 寬政元年 寢矣

津 五十四歲 同時 寢矣

喜右衛門 五十二歲 寬政元年 寢矣

与右衛門 五十二歲 享保十二年 寢矣

慶 二十九歲 元文五年 寢矣

之 歲不知 寬保元年 寢矣

仁 三十四歲 享保二年 寢矣

孝行者 同領 他海郡田村新田村

孝行者 同領 他海郡上星門村

孝行者 同領 田川郡卷沼村

孝行者 同領 他海郡酒田十五堂町

孝行者 同領 田川郡由良村

奇特者 同領 田川郡系海村

孝行者 同領 田川郡宮野浦村

孝行者 同領 他海郡上志門村

孝行者 同領 他海郡上志門村

百姓

百姓

百姓之妻

町人

百姓

百姓

百姓

百姓

孫右衛門 五十六歲 享保二年 寢矣

勘右衛門 五十一歲 享保二年 寢矣

之 四十三歲 享保四年 寢矣

五郎左衛門 四十八歲 寬政元年 寢矣

孫十郎 三十五歲 寬政元年 寢矣

松右衛門 五十一歲 寬政元年 寢矣

太身左衛門 十九歲 寬政二年 寢矣

治之助 五十三歲 寬政二年 寢矣

孝行者

同領 飽海郡下小松村

孝行者

同領 飽海郡酒田上本町

兄弟睦者

同領 飽海郡酒田下中町

孝行者

同領 飽海郡酒田下中町

奇特者

同領 飽海郡酒田荒後町

孝行者

同領 同所

孝行者

同領 飽海郡橋林村

孝行者

同領 飽海郡酒田秋田町

百姓

九

孝行者

寬延二年

新玄清

寬延三年

九十郎

寬延三年

去之郎

寬延三年

長吉

寬延三年

吉十郎

同時

新助

寬延三年

津杯

寶曆元年

町人

町人 右馬場

町人

町人

長吉伴

百姓

町人 橋去浦娘

百姓 若尾島娘

社人

本間近江

寶曆四年

津子

寶曆六年

新玄清

寶曆六年

津

寶曆六年

米右衛門

寶曆六年

又四郎

寶曆六年

久之郎

寶曆六年

孝行者

同領 飽海郡酒田四町

奇特者

同領 田川郡系海村

奇特者

同領 田川郡系海村

孝行者

同領 田川郡系海村

孝行者

同領 田川郡板戸村

孝行者

同領 飽海郡升田村

孝行者

同領 飽海郡横町村

孝行者

同領 飽海郡十日市村

孝行者

同領 飽海郡下音町

孝行者

同領 飽海郡酒田中之町

孝行者

同領 田川郡折田村

孝行者

同領 同所

孝行者

同領 田川郡湯温海村

孝行者

同領 飽海郡酒田上町

百姓山七郎某

名不知

宝曆六年

百姓長左衛門

法

宝曆六年

町人三右衛門

世

宝曆八年

町人

上林勇右衛門

宝曆八年

百姓七郎某

又

宝曆九年

同娘

又

同時

百姓

又

宝曆九年

町人

傳

宝曆十年

孝行者

同領 飽海郡酒田中之町

孝行者

同領 飽海郡酒田流後町

孝行者

同領 田川郡田中村

孝行者

同領 田川郡早田村

孝行者

同領 飽海郡南中野候村

孝行者

同領 同所

孝行者

同領 飽海郡酒田下町

孝行者

同領 飽海郡酒田下町

町人三右衛門

先

宝曆十年

町人長左衛門

先

宝曆十年

百姓仙左衛門

先

宝曆十一年

百姓

先

宝曆十二年

百姓姓左衛門

先

宝曆十二年

同

先

同時

町人長左衛門

先

宝曆十三年

町人

先

明和元年

孝行者

同領 田川那馬町村

孝行者

同領 田川那谷地與全村

孝行者

同領 田川那谷地與全村

孝行者

同領 飽海那北中野保村

孝行者

同領 田所

兄弟睦者

同領 田川那上桂保村

孝行者

同領 田川那那保村

孝行者

同領 田所

百姓

作左馬

二十七歲 明和元年 慶長

百姓

金之丞

二十七歲 明和二年 慶長

百姓

久次郎

十六歲 明和二年 慶長

百姓

志

四十四歲 明和二年 慶長

百姓

八云清

三十六歲 明和四年 慶長

百姓

孫次郎

二十七歲 明和四年 慶長

百姓

孫十郎

四十二歲 同時 慶長

三十七歲

孝行者

同領 飽海那酒田山王堂町

孝行者

同領 飽海那吹浦村

孝行者

同領 飽海那酒田之町

孝行者

同領 田川那八日町村

孝行者

同領 飽海那山楯組山楯村

孝行者

同領 田所

孝行者

同領 飽海那酒田基町

孝行者

同領 飽海那天神堂村

町人

大組

二十歲 明和五年 慶長

百姓

若次郎

四十二歲 明和七年 慶長

百姓

若次郎

五十六歲 明和八年 慶長

百姓

若次郎

三十三歲 明和八年 慶長

百姓

若次郎

四十八歲 明和八年 慶長

百姓

若次郎

三十六歲 同時 慶長

百姓

若次郎

三十七歲 安永四年 慶長

百姓

若次郎

三十八歲 天明三年 慶長

孝行者 同領 田門別上七曲村

孝行者 同領 同領

孝行者 同領 田門別猪子村

孝行者 同領 田門別新地村

孝行者 同領 同領

兄弟睦者 同領 鹿子園城下上青町

孝行者 同領 飽海別酒田上中町

孝行者 同領 同領

百姓

去五郎 天明五年 同領

百姓

百姓

伊七妻 同領 天明六年

町人

浦邊町人

赤井

上林源七郎 天明七年 同領

孝行者 同領 同領

孝行者 同領 同領

孝行者 同領 同領

孝行者 同領 同領

孝行者 同領 同領

孝行者 同領 飽海別酒田下内町

孝行者 同領 同領

孝行者 同領 同領 上木町

同

上林文七 同領 天明七年

同

上林恒吉 同領 天明七年

同

上林富之助 同領 天明七年

同

上林年次 同領 天明七年

上林見龍 同領 天明七年

孝行者

同領 龍海那格後川系

奇特者

同領 龍之園城下音町

奇特者

同領 同所

孝行者

同領 龍之園城下十日町

奇特者

同領 龍之園城下一百市町

奇特者

同領 同所

奇特者

同領 龍之園城下五日町

孝行者

同領 龍之園城下音町

百姓

全四郎

天明七年 寢

信右衛門

天明八年 寢

乙六

同時 同所

由玄清

天明八年 寢

孫玄清

天明八年 寢

乙二

同時 寢

長次郎

天明八年 寢

五五郎

天明八年 寢

町人仙右衛門

乙二

天明八年 寢

三郎

天明八年 寢

重右衛門

天明八年 寢

源四郎

天明八年 寢

圓六

天明八年 寢

宋右衛門

天明八年 寢

太右衛門

天明八年 寢

乙二

天明八年 寢

孝行者

同領 田川那田川村

百姓

乙二

天明八年 寢

孝行者 同領 田川於尾山村

孝行者 同領 田川於尾山村

孝行者 同領 飽海於漆曾根村

孝行者 同領 秋元祖馬守領分村山於菅沢村

忠義者 同領 山形城下百町

孝行者 同領 山形城下百町

孝行者 同領 山形城下百町

孝行者 同領 山形城下材木町、内新町

百姓

百姓

百姓市十町牌

百姓

町人大坂屋次郎在馬代

町

町

町

萬三郎 寛政元年 寢養

作之助 寛政元年 寢養

三次郎 寛政元年 寢養

花之助 安永元年 寢養

小四郎 天明元年 寢養

惣助 天明元年 寢養

赤四郎 天明元年 寢養

邦之助 天明元年 寢養

町人

檢斷同屋兼常小株五三下男

町人夏齋屋

令三郎牌

町人熊屋

町人木綿屋

町人藤屋

町人藤屋

清助 天明元年 寢養

与八 寛政三年 寢養

金三郎 宝曆十年 寢養

代助 同時 寢養

三右衛門 宝曆十年 寢養

清助 天明六年 寢養

五三郎 天明六年 寢養

又五郎 天明七年 寢養

孝行者 六郷依波守領分 由利郡内越村

孝行者 同領 本庄城下上渡町

孝行者 同領 同所

孝行者 同領 本庄城下下田町

孝行者 同領 本庄城下下田町

孝行者 同領 本庄城下泉町

孝行者 同領 由利郡石浜村

孝行者 同領 由利郡内越村

百姓

町人 才美清伴

同

町人

町人

町人 才美清伴

百姓

五田百姓

久田郎 明和元年 慶長

市之丞 明和二年 慶長

小三郎 同時 慶長

利之丞 明和八年 慶長

惣之丞 明和八年 慶長

仁之郎 安永二年 慶長

長作 天明三年 慶長

吉助 天明五年 慶長

孝行者 同領 由利郡西小出村

孝行者 同領 由利郡陸越村

孝行者 岩城伊極守領分 由利郡龜田本村

孝行者 同領 由利郡岩野目沢村

孝行者 同領 同所

孝行者 同領 由利郡龜田本村

潔白者 同領 由利郡内通門村

潔白者 同領 由利郡親川村

百姓

五田百姓 善助後家

百姓

百姓

三太郎

百姓

百姓

百姓 長八郎 長吉妻

九右衛門 天明七年 慶長

至 寛政元年 慶長

若四郎 宝曆十一年 慶長

三太郎 明和八年 慶長

定七

若太郎 天明七年 慶長

友四郎 寛政二年 慶長

二十五歳 寛政三年 慶長

○ 孝行者

上松大澤正大彌領分
置賜勅赤湯村

湯本給仕女

菊の井

十九歳

安永七年
癸亥二月

寺持者 稻村七郎左衛門
 村山郡大蔵村の百姓 稻村七郎左衛門ハ祖父の代より
 産業やうくしよあこころなりて六十名あまの
 乃田畑をもらひ一家二十七人睦い知らさともよ
 農業にかとよくし殊よつ子の初ひ正くと成給ひ
 粒をもちし身をつくあやにうして多きと民を
 憐事とむ称とせり寛延二年村人乃貢物と
 ひる子樹たるものふみ奉とりて奉に
 りら迄とていひて利後と納めと百十
 五俵の米とてとてし限と満とのりたる

乃久米之助にまうりて一村乃首をその教よりお
 とめさる年のをれう稼穡をもまねあててく救
 ひるに次乃米も食糧乏しく人よ及へるも乃
 粒も多うりて一六米六十俵ありと人くよ分
 ちあてて六十俵をハ利穡をたらはみ年を限
 甲とくまくに分ちて是とて定めりててり
 あてて一の粒も事ゆくあてててけせ六回必
 酒田の湊より百二十俵乃金もく米買して一
 くりり極めく多きことよハ價をととてはと
 せし程にそれゆる毎終十あるもさうり多の

されとまりて一年の凶作より後ハ村人こと小田
 竊して多く留粒る所ハ食糧乏りて一六米
 七部九米のゆく歎とて一俵よ米半入る程年
 俵を以てる人並善友の男ハ利穡をたらはり
 してき一秋のりりてはみおとめとせそあこ
 ねらの事時乃所代官野田松次郎少元あけし
 一六奇特乃針ひたりとて一俵乃所獲美給り
 一六天明二年祖父乃意志とてはみ時も二十
 俵の米出して田畑とて民よ施して又子てり
 一六六十也の馬と書ひたりとて村中の一を里に記

ものよりく耕作乃助とあり二十六年ころに
 にて村の諸君の社乃大よめりくといふ事
 して一村乃菩提なる瑞氷とといふに大般若
 經とよせよと毎に一度つて元僧とありて
 公穀成就の祈りといふ事年々こゝろ其村
 といふ野辺村といふ所ありて二里北回へけり
 道なるかき毎に秋節とて手馬乃ゆりて
 ありてりといふことありて石切の人をせり
 して及つてくらせよ及のわらに溜井のありて
 大ぬ乃度毎に水溢して地味乃人のるやと

なる事なるをいへる名橋造らむ事をいひ
 といふにその事ともいへり志りたりと
 風俗よりぬものを教へ諭す事熱なり
 といふ事村はもとより隣里のものありて
 友のありたりもとのつらくありあり
 此代官池田仙九郎といひて寛政元年より
 といふ事年々ありて此等村よりり
 つらき二ありの金出たりて七郎左衛門と
 村の若手藤大谷村乃孫次とありて
 村人よりありて利信とありて

せんといふのけつよ七席左衛門那中の之のいと論
 言の外も餘計に礼をど加へこれより此らもま
 くたさむといふといひ出せばいふといふ言ひ
 きのと船これよ言ひて餘計の金出せし事し
 けりさうし七席左衛門いひかしくにふれりといふ
 といふらふといふと覚えあけしといふ寛政六年二月
 父子のものよ狼狽りし七席左衛門身と捨てて
 刀さし事と申す一苗字に永く子孫よ傳ふ魚見
 命りりといふ

孝行者久右衛門

雄勝那中村よ久右衛門といふ方勇ま百姓あり父
 は延享四年正月より母は六年とれりり中風を
 やして起すも自達する迄久右衛門の事若くといふ
 りり孝心深く母の病これと好ま多しと誠力のい
 りり求めあといふといふもそのふよさうといふ
 妻もあといふといふに心をさうしてさうつんけら
 或時母のふ言れ味いりあうらんこの中といふ
 をさうもあといふといふもそのふ言れ味いりあ
 といふいふに入して求めけらといふりらもま
 といふ言の飛来りて一羽のふ言を落さくといふ

しくていふふ初帰里して母の好とを町るへくと
 なるそのくちもまの宿上金ふとつふ所の酒こ
 のよけといひきき酒よりふとてわとれおと折る
 しくとくまのまの里あありれるちちととと
 こめて求めゆりてとくめけつを飯くる類の
 の事ちやれも多くと郷のまのむひとや世
 ころ明和二年三月能まより移とあこへて獲美
 しく母の生涯杖持業をととせける

孝行者代名

並賜於西大塚村乃百姓代名いもあれつとて此記の

よく家の自むつあしく親族も親と村人のま
 里も疎うあつとるこく程子考くともあつとも
 と相慕ひふれと子願と教ひて貞節とと
 せんしく日このつととあつとつとつとつとつと
 ちる事ちくあつとつとつとつとつとつとつとつと
 ひ物夕の食事くも親乃箸とつとつとつとつとつと
 の膳よりふ事ちくつとつとつとつとつとつとつと
 ありしくつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 もとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 め酒酌うつとつとつとつとつとつとつとつとつと

ちけたりり父の孫子出んとされ家のうちのも
 の手よある業をもまけうちく父と見送りぬ
 せら時に出違ひ里代を常に父に返すおけり
 う飯初も父の給とあまた先くして切事
 とまこと信ふ事父よまことして龜田乃又隣り
 福んくくおまけりおまけ湯釜おけりといふ事
 と勤めくおまけりこのうちくおまけ父の代をい
 くらゆくといひ代をいそれありといふ
 及と譲りけりといふのまのくくおまけいそれ
 とも父子の孫れんもつくと程もとも譲りけり

して志くく時と移せくとるん早後の才あり
 ありく父子の礼とまけりおまけいそれのよも情
 ありくまことこれおまけいそれとまけいそれ
 六年領主より年とあまこと家のうちけり
 も旋とまけり礼おまけいそれの代をいそれ
 姉ともくおまけり和順とまけいそれとく父の業を
 とまけいそれおまけいそれのまのまも親をといふ
 獲英せり

孝行者清太郎

孝行者ろく

果澤の城下免許町子清右郎として高人あり
 父乃源之郎ハ昭和六年此頃より一病をうけて
 起すも自由さうさうりーかを主婦を合
 せしき悲しつらん多の父常に湯のりる事を好
 るしーの主婦の者多ととり又ハくさおひたを
 して巻の風呂屋子伴ひて由あるとさせ冬乃
 親をよハ巨魁にい孫させ主婦ハ例ハ添御し
 て襟をとらりおさめ食をも志しく洗ひささめ
 て潔くせり父ハ七十にあありて稚子の如くに
 あり何れと好之多とさうさうしてふよけく

さる事あり外におぬる時ハ官首を樂らう帰
 るを祈ぬされハ仮初におぬる時ハ妻ハ走りおて
 家去産たの忘事ありそとらん誠つけたる或時
 父の家乃うしるたる細うらおこはとく立おけ
 る老乃力れさふへしともるさうりーハ主婦
 のもれえとらもよとくせおとく父らん乃如くり
 世乃事とありて悦むくめまへく家の内外の
 事やあともそれしむ子おほひて父子乃るにさ
 ころる事あり祖母と母と世のありし時
 同くさふ子孝養とあり母乃病のりぬる

以妻常に流涙して衣抱ふら泣きしける
 かしやる甲斐なく曰ふ年々さうにうせふれを
 忌日ハさうりものもいと老いも志むく菩提
 ちに詣つて世中此跡らるる事ちとつけ畜
 する日ハ母乃つ子くをそれより一奉をさひ
 ゆく暮乃わらうよりいりてあよめ進つちり
 若今の由さお祖母乃ありしあもおら
 乃衣服をくくその飯乃親族をくめを
 に出入も乃よも眩しくうかか明和八年
 八月終より支母乃れよあえの

孝行者さうい

さ紀ハ益湯那中山村乃百姓久左衛門妻少く母に
 侍ふる事極めく孝なり母ハ十年さういあり
 病て歩らもくうくを忍にうさういいけ
 くあもも抱え乃事ありとさけハそれ子の
 久左衛門に母と貞と己もつさういしてん成
 女母ハ身ましく應對もいとむらけけれと費
 しくいともくこ急とわらけく抱懐く程もさ
 記よりぬ事とハ多美似小情をうらくるさ
 てんゆくあく懐りてさうせぬまの久左衛門ハ聲

小菴のりまのたろか、菴乃、夏、ふのくろく、こら
 乃、里、此、譯、に、産、も、れ、る、さ、う、と、つ、ら、後、の、業、を、
 考、け、る、と、母、れ、ら、う、此、事、に、り、ひ、し、の、か、あ、く
 つ、と、し、母、お、い、さ、ら、ぬ、さ、由、に、り、ひ、さ、く、産、産、り、
 乃、身、の、を、つ、け、進、と、教、あ、く、母、を、り、う、さ、
 日、く、此、事、を、り、り、菓子、或、ら、珍、ら、し、さ、あ、る
 と、携、つ、く、母、お、い、さ、ら、ぬ、母、も、又、人、の、強、り、し、も
 乃、を、ハ、必、終、へ、産、之、志、業、り、来、る、と、信、く、あ、さ、へ、
 ら、と、母、子、れ、中、ら、い、さ、ら、れ、て、賸、り、の、さ、こ、妻、ハ、を、
 の、ま、い、し、の、も、乃、お、い、つ、つ、ま、終、あ、ら、い、し、か、母、に

八、人、並、の、衣、服、を、ま、ま、身、着、せ、く、暖、く、あ、ら、し、む、田、畑
 乃、業、又、ハ、野、山、乃、稼、に、出、ぬ、事、ハ、熟、に、海、を、り、ひ、由
 事、ハ、い、さ、ら、に、く、こ、ら、ら、に、由、さ、り、言、日、の、任、業、を、
 里、崎、あ、ら、中、の、り、も、物、夕、乃、食、物、を、ハ、と、け、く
 ら、を、さ、く、ら、の、人、さ、ま、め、ぬ、明、和、の、末、乃、此、秋、も
 や、ら、し、く、お、あ、け、け、り、と、教、當、も、を、り、ら、し、こ、に、母、の
 事、ハ、の、事、を、り、ひ、ぬ、く、好、あ、ら、し、こ、色、の、取、り、外
 一、り、産、ら、し、お、あ、る、へ、さ、此、ら、ら、福、を、ん、と、さ、ら、し、ハ、心、
 多、れ、ら、も、母、の、こ、れ、を、と、り、る、人、ん、事、を、ハ、筋、よ、ら、
 心、強、よ、り、け、り、し、く、そ、こ、ら、う、と、さ、ら、く、求、め、け、る、よ

てのらそのあまうりやどのとらひきるとなるんく
と領主に告るまのありし初さもの孝義
類のくくく安永二年六月某そこちくや何
くえて獲美しこの年こそ七歳あり

孝行者義之郎

並楊羽宮村乃百姓義之郎ハ祖父と孫内父と
新ハといひるるの祖父ハ目しあくをうまあり
父ハ中風と病く歩けもふよあつせぬと悲に
いこころり扱いしそのふにりる人極めくあけ
まらも家乃目じついあつらうくあら川事

くるとあつてもくならげり目く世くろりの勤
に出げらあめらるるよハ必ま首と推考へるの食扱
ふもらうり何く水乃好ともよとやうよとの
へよとめくいふくも二人のふよこへる事な
し一年平山といふ所に川除乃嘗法ありし
そ乃事ともくけるふ父のえあかしけしと老の
男のふよあつせぬふとつふやくと義之郎とさ
いとやとくく刺子竹筒なと携へくこく
こよけいさありさあをくくめ四方の衆をふ
と法らもに預りつけまひよ酒らとくく

終日心となくさめあつた父祖のうをよく返はる
 小持佛堂にむいて日く礼事なると何と申すと
 語りやえく年月少れとも急ら流布よおれ
 とせりありいとと菓子と好く事と心
 てつ子よ求免ゆりく牌前に供へ志りて後母
 ももさめあつた母はこよよと味糖と好とおれと
 買ふへと一價のあつりけむいと、手業よその形と
 作りしと余は乃とる目ともさつとよいとと流り
 あつて欲うといて母を慰めあつた由世よも心
 けるりいとと終る孝義人よもととくれり

事領主にやえく米の養養とあつて
 安永八年二月の事なり

孝行者と志

とある米津の城下東町乃高人市右衛門の娘は
 安永七年父乃市右衛門重病とうけて死ぬ
 へくるやとてか醫療とてとて仏神と祈り
 終るやとてとも枝葉茂りていと志中へも
 といとて一男れうりに産むといはるる
 上と薬ともとていとけよとえけつと父母
 歎とてと醫志にとてらに病ありともいと家

乃ららばもいふくあやしくしてさうしてとら
 らよしくともばはよせめといそれハ父の病
 のさぬ怪うらしくといたりて命に代らんとい
 せしにさういありといえあへるハ母のうらまひ
 一これよいといけしハ命をせめくあつと
 あいんのおさひをく事あらはとといえんれと
 之が勢ふといあらいて涙をたうてついでさう
 やうくいといて薬をもさめくとなん市を
 夫婦乃まのもさ母よなる婦くさ母十年
 といけしをける後ハ跡をもさ頃子弟いとい

もらうり者も家の内乃まのいいうてこのつら
 く慕はる香花をき向い海さう如くよ教
 い妻の母ともいいてて妻物とさくめ娘もく
 もんといさうていさう病のうらの女抱えら
 ことなりく領主もさうて安永八年十二月
 その名を賞し市をさう子後妻と娘に承あこ
 へし事しれありとい

孝行者大次郎

並賜那大石村よ高十九石六斗ありもとら
 大次郎といふ名のあり家極めくさうといへ

とも一奉も貢をせしに對にともやくらり孝乃
 へ婦く里貴祖父の次郎を爲す父の平次郎と
 いふらひといつはありともいふく奉れ貢にら
 しくく人ふつて人の代をもく僕いとも
 けつて次郎雅とともも保く疑ふをめて
 へ若面ともたうくともわとあひまらうらふよ由れ
 野葉とつとてふつとあひ祖父と父と候とらひ
 ゆんとあひよ母ハ雅とともあひくともくつての
 とら人ゆらん奉り實事ありとともくゆらとら
 しとららら次もともありととも父のすくともよ

ありけるは素とともゆとともは世後のの業に出
 せはつとも立おして安のともゆらとらく見送り候とら
 へつとらよも又志くして遠く歸るつとら乃冬の
 冷母乃病よらやうとらよ豆敷とともく例よあ
 里して病をよらけ候とらつとら建の敷を重
 祢着せ或ハ大桶をいこつとらとら己り肌の薄
 さいとらふよけとら母のいふむ祢よ候ひとら
 里めくれ里冬の極めくともとらよ母の水業は
 るとらうとら奉りよありい候ハ母子先とらと
 おと湯とつとらして水屋の板乃水通つとら

たらふ喜業大根やりの物を洗へる時ハ例ハ
 申しく水をふと當てまらりて洗ふに己の
 手是とてやして母乃堪るとたふさると洗
 ちりけるらん或時母衣の破きつと款
 さいくろくも破きさるる洗はあしといふ
 と繕ふへ布のこもられしよるけしむに
 もこりよもせんよるしといふやくとて
 ろとどのの袖をよりてこり着たり一夜
 の裡乃うらげられらん母にあし家子よ
 ハ裡裏るるに家らさしてありくとて母の心

小なりし薪をくく野業をこむ事あせら
 ぬるへと種をくくりこそのれあしむと路に
 してとてしてぬるを待つれとてつけは
 例よくそのこもてとけぬ袖に負の業仕
 たる折ハ母乃手と懐に入らあてめ美の事
 己の母のくくしとてとてにいとてはて母
 乃勞多らむ事やうらりける又その里人
 をこり辺に産ひまらる事とて毎さしつハ
 と物志ならしつものよひくはつれ錢又
 ハ菓子あしあふるといふもくはる物推め

へゆりて母にともめぬくる事とも願まにす
そく被の十四といへる安永九年の七月子孫と
とらせりその孝を賞しとす

孝行者太四郎

益陽郡西大塚村よ太四郎といふ百姓あり父は多
病ありて人をもくくの養業もするはやうくよ
困窮して十之の泣より人よつて身代を以
て父の養ひよあそぬ父の病重りこれとも
まはは母乃人よあつせは親のそりあひそ
安否とらひとももくくよんを慰むるより

うとらひたりて父乃いぬるあそくの親乃あそ
ろともいともと小飲るころらひて慰めけり或
時父乃赤湯村乃出湯に浴とせんといひこれと
まはは母とこひて父とおひ母を具しゆりて
うこにさくまはる別れ費ともとく備ひを記
その月八日にゆりて父母乃人々さ日数をり
そへてあこもりて途へ父よ酒をよめば
水を飲しともよ酔ひころとあよもくたり
あひよ悦ひて候ひ傳りぬされ父の病一交
ひ急るとあよんけりか又もあらうてあひも

叶とて月以経しと歎つりくさひていりく
 腰若よのとおよまん事かたうらと朽く
 入よ負れて是ともの人あひるをば業乃こよ
 ひととをちりぬへと慰めつと脊をささむけ
 て父をねひ歎なるとうらひて家乃内をあり
 さいふとりけ稚子を扱よこくにもくちうこ
 又いそ所よ神樂お獅子あると乃来るをこ
 せハ地ゆめく父を誘ひ多ふいたつとけと
 ことゆめくそ乃と面をえく帰りてとら
 へくこら歎ひるれるといひてそ乃と面をさ糸

いてともよあつかにいりあつてハ痛若とも
 せさせけり父も後ハ使業乃あひをたちて
 け乃事なるとこあつていひ並てうせけと
 ばさしく父の玄業の如く跡をも終に弟い
 せうして後回村乃又を病つらるとの聲にせん
 そく媒していせけしにそ乃とよあつとをえれ
 とと年れ男病あつれといひそらよ又を病も多
 病のものよあまを病を病うとあうらにいひ
 しくハやむ事なくその家に移りけりう回
 乃多あるとて又も人の下船とありて月の代

を得て賈にあはくを乞ふも給入の夜こり
 ちととを乞ふまじけくぬと入りと雲の親より
 久しく如くを乞ふまじけくぬと入りと雲の親より
 いや降りてつやく物をもくも給ひあまりのせん
 うこたうまじけくぬと入りと雲の親より
 しくハ表父もそれ志を懐きしうまじけくぬと入りと雲の親より
 ひくとたうまじけくぬと入りと雲の親より
 と孝と乞ふまじけくぬと入りと雲の親より
 しくハ天明元年六月願主より果とあこり
 て貴し今ゆ

孝行者孝十郎

並賜那板岩村乃百姓孝十郎ハその里乃驛に也
 ちととを乞ふまじけくぬと入りと雲の親より
 父ハ六十七まじけくぬと入りと雲の親より
 朔夕乃食物乞ふまじけくぬと入りと雲の親より
 んと乞ふまじけくぬと入りと雲の親より
 に城下より帰るまじけくぬと入りと雲の親より
 といまじけくぬと入りと雲の親より
 ちととを乞ふまじけくぬと入りと雲の親より
 ちととを乞ふまじけくぬと入りと雲の親より
 ちととを乞ふまじけくぬと入りと雲の親より

あひ出さくわくことと見ゆらるるもあやうし
儀ありしよ小見えはほも涙よくれくと言へし
こひ借ふ人も志乃涙と事と感しそとも涙
を催しそり或時母の心乃芋と好くし目言
ぬえともあしくゆり出さるるとあるは思に
てあることと尋ねつゆゆこよおえく
とくめしとそ妻もあこ似ると友りあくく
つるしつ小権子あくも父母乃あくへし
祖母に孝とそく人乃慈養とよくひく
あうのく小より天明元年十一月領主より褒
め

しと中十郎に兼とあこへ妻に後をうとら
せけり

孝行者孫玄清

重賜那越中里村乃百姓孫玄清はりこより
まのりり小寶曆六年此凶作よえ遠く屋
うく小敷差つとたんとせしつ小孫玄清と
あこ十之乃権ふもえりよあひす目に神
ひしとまつりしり乃人よあをえく祖父と父
とをこつとけりよ一二年ありて祖父はうせ父
の家と継へしとらるる人乃許よをよと

海く歎きして色さるるの人のつる人の代
 とゆく父乃才と續ひまもてる乃あつらも
 報毎にうりうり日く乃事なると語り慰先
 し。あふふ年ありて取才とも償ひゆり父と
 とも子すとぬる事とゆく悦ひてまけて孝義
 に心をせり。之後妻をぬりしに又あめわ
 りたつともあつら買乃心にさふ事なるも物
 徳ともよ福んこ後みつら酒とも日毎よとめ
 してあつらとめさ父の病よつて解と魚を
 このめらる事乃ありし山里にあるへとも乃

ともあつらつら、價もえしつらこれハ益報産業
 ととげとつら乃價とゆく小玉町といふ所に
 ちそ求めけしと好める魚乃あつらしつら
 小越後必村と領ちく飯とてやうく子買ひ
 けしと踏義乃用意とともなるも益報いこと
 けし二日おとにいとさゆりて魚をけしぬれり
 物ともうひしてやうくにをさつれりくと領主に
 つらるるありしつら、詠云流し兼妻に残あつら
 て賞せりこれ天明四年乃事なり

孝行者と慈大母

与忠右衛門ハ益福郡成田村乃百姓たり父ハ奉比眼
 子福也父ともまろくも八十と云えあま
 筋多し事とのといへともり何そ乃心よこつた
 と。たうく田畑より物産もそ乃目此仕業と云く
 誇りてつら世世ハ例よりつらつら所の通ひと云
 け敷き乃此と酒造るそと云めてぬき何を
 も亦志也ありつら昔の事なと云つらつらつら
 めきつら知月つらつらめ村人と信じて書村とい
 ぬ下よ由ける物産れるそつら酒うぶ家つら
 新酒ある志つらみえれと云つらつらつらつら

ようして飲らんたつらつらめけつら父あもいあつら
 させつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
 して物つらつらつらつらつらつらつらつらつら
 いそつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
 つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
 忠右衛門つらつらつらつらつらつらつらつらつら
 ちつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
 してつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
 に真を信しつらつらつらつらつらつらつらつら
 つかつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

くこのとをけ今つひ信てありけまを
 老乃月のふよあうせとむとくつとせめて安
 こと程の事なるのどく次の日伴ひしく山路を
 と背にあひなるらしてあうてさそその又回と
 ひ乃老人のつらひて月福乃様を結ひし事の
 ありしつ福り親乃あもさるくそ成願ひて
 そ乃つらひよもさるきくそと安を業つふらる
 くさひしてのまひよりいさくそつらうさおひつ
 送り送入してそれ様よもあつらうせさる
 又い里あまのり福なる田舎とらふ系よ娘の縁付

てありしよも志りくおいゆさくそありてあ
 る時ハ幾度とれくゆさく安をさうひ女乃福
 のをものうけいあひをさうして神佛よ祈り
 ぬ抱乃さぬも又徳よこさうし妻もまよおひ
 て孝心婦く知よ出まはさるへさおと家と産
 となく人のもくたうくに振るまはんよおけ
 さ物と推入ゆりてまうめあやう先の事を
 も慈よさうりさうさうさうの叔父の離とといふ
 毫の目くさうさうさうさうさうさうさうさう
 も自はならさうさうさうさうさうさうさうさう

出る交こしよのねよ抱ふ時いゆふへうさ夕よ
 ころへねいよふさこころふへさまの價をもち
 父の好めちぶの料といふぬそれの申に世にも
 ありさ程のりぬさもれ好まうといふさんよん
 なくしとて跪さてうりのまひさるぬも着に
 ぬのりてあらあふくといふ時いやら跪さ着
 におひるさしてあつちさ事もありさ父の
 痛乃新りれ為よ十奉あつて湯敷山れと
 りよ事正つと女仔細へもあつてい福てそ乃
 解の流ふよも立於せり母いやうさこのよて

生後六十七歳ありしこのれも臨痛乃痛にち
 としと父と目さぬに扱ひ糸に出せと必侍い
 ともぬをさ福くやらうとてい衣振か
 携へて起外ととらりとの事唐々又ハ親族乃
 許より帰まいつも父母乃茶よ跪さてあり
 し先乃事と委く謹むる事をなとさ
 ちうさ儀よゆく時もちうささうさる志乃り
 るれハ家の内乃まのよもわらうよ更里飯初よ
 もま業あらく罵る事あり親族の中らひも
 又睦しうさうの耕作に出くも人の田乃水の

るをせられぬ水色をけあありあつたをいふあめあめと
しとての事又やうけ難ありしハ願望の
賞員して享保十二年と寛保三年とに在りま
て兼てとせし

孝行者慶玉

田川郡早田村乃盲人慶玉ハ父を養助といひて
家極めく窮乏なり奉りて後身自世たよ
らざる病をさへうけし一人の力をさへくんと
く孝の益疾痛をいふとけくくあつたもあ
くいと意欲よりことこれ里父ハ酒をこのまゝ

日毎に買てさめ又解さ急とのそとぬきとこの
里にたをされたの事をいともはと里末ある誠
後必寐屋村といふ所ありくゆき日れうらよ
おめあくさむ母ハ六十二ありし又多病り
て世渡りの業もく之れはあつた父乃さああり
つゝ世の外よ出く人のも乃さらはる時ハ一錢
といへるもこのくものといふはしめて母乃好め
食あより来り菓子乃糖を始る時よりはは
産とてはるのさういふく富薦といふもの
作らるるをいふもるれはつら絶るハ薦編く

奉之りしと支夜跡もとおこひらよも二度乃
 権便をゆつてはあけけり支の松菊よ下り
 次の奉火よあいにいかに敷造る人よとよしそしも
 るくして人の家ありて福里とよとこの地をいん
 ようして小屋作らせ地をうけぬり料よい歩
 の金をとけくしくいふそれの肉をとりつよふちら
 へて清志あつたゆきる四年と見よ人の作里と見
 けり小屋をうけいふあいの修理くもんとてもと
 の和よゆりよとよと初て十六奉と経てえ文
 六年といつよその里乃奉目とれら肝葉と

いふものより清志あつたゆきる四年と見よ人の作里と見
 けり小屋をうけいふあいの修理くもんとてもと
 の和よゆりよとよと初て十六奉と経てえ文
 六年といつよその里乃奉目とれら肝葉と

してうゑりつれまの松前より一後娘が生れ
 めろと今日あゝ大事におつゝこそまも由へ
 るく娘をも父よんせありきと神仏より祈りて
 父も帰里さんと心ひつゝも娘の病も愈
 出んと心ろくけし娘の心ゆゑく歎めやう
 よろくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 してうゑりつれまの松前より一後娘が生れ
 めろと今日あゝ大事におつゝこそまも由へ
 るく娘をも父よんせありきと神仏より祈りて
 父も帰里さんと心ひつゝも娘の病も愈
 出んと心ろくけし娘の心ゆゑく歎めやう
 よろくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

はまらゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 るやう貞義と感ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 そのよゝ松前へいひきゝゝゝゝゝゝゝ
 中六条と強て帰里来ぬゝゝゝゝゝゝゝ
 さりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 してうゑりつれまの松前より一後娘が生れ
 めろと今日あゝ大事におつゝこそまも由へ
 るく娘をも父よんせありきと神仏より祈りて
 父も帰里さんと心ひつゝも娘の病も愈
 出んと心ろくけし娘の心ゆゑく歎めやう
 よろくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 してうゑりつれまの松前より一後娘が生れ
 めろと今日あゝ大事におつゝこそまも由へ
 るく娘をも父よんせありきと神仏より祈りて
 父も帰里さんと心ひつゝも娘の病も愈
 出んと心ろくけし娘の心ゆゑく歎めやう
 よろくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

神の祿養して栄えらるるに

奇特者長吉

飽海郡酒田筑後町の肝養長吉は至性篤実なる
をのよき家のうら和せり祖母の八十七才に
も母の六十才に業ありしに孝の心あつて
中もも祖母の老乃身のことよりりあつて
も抱うこととて手記をわく強る事あり
抱してうけても人の手とてはる志乃もの
事ハ町内肉の事どもあやうき事あり
毎に親を大事うけふとていひまじける

長吉清といふ名の母子の中らひむつあつて
少くして六人組のものとしてをの家に具
ありしめありあつてさういふに不孝のもの
を料のませつらるる事ありてこれに
にやうしてさういふしてさういふに
大の警いことれもあつたあやうき事あり
ひして今より後いふ事ありりりりりり
とていふことありりりりりりりりりり
ていふ家もほろりりりりりりりりりり
んとして六人組のものにたつともいふ

ありて今に二十名ありの田畠をもそのこ
れとありて今に二十名ありの田畠をもそのこ
兒の者志願といひてに強りて己のその部とつを
のと納めてお敷る業ん事をとむきとて
あるくの事と知見のまに任せ今あり兼てあり
見の屋敷のうらに敷作りてとてとてとてとてとて
思にゆくも志願の海とらひ何のゆくもあ
まねめ物事とこれをもゆきとてとてとてとてとて
きりてとてとての器物もゆくもあてとてとてとて
評にゆくりさるいものこと敷家よて用ゐるその見

兄弟睦者八云清

八云清は田川郡上桂保村の百姓なり先祖より
十名にゆくりゆきとてぬやとて地元のともちけり
寂しにゆくりて高ひせり種ゆきとてゆくりての豊に

ありて今に二十名ありの田畠をもそのこ
れとありて今に二十名ありの田畠をもそのこ
兒の者志願といひてに強りて己のその部とつを
のと納めてお敷る業ん事をとむきとて
あるくの事と知見のまに任せ今あり兼てあり
見の屋敷のうらに敷作りてとてとてとてとてとて
思にゆくも志願の海とらひ何のゆくもあ
まねめ物事とこれをもゆきとてとてとてとてとて
きりてとてとての器物もゆくもあてとてとてとて
評にゆくりさるいものこと敷家よて用ゐるその見

年吉ハ飽海船酒田登町の商人あり父ハ年三郎
 とくく宝曆十三年平吉七歳といへり其後
 國新渡よりて高ひせし利を其ひて其の
 といへは戸よあつたといひをくりて家にも物
 とを立不さしつちつりしハ親族おつちの
 して妻よハ縁よりて出しや里年吉ハ引り
 とくきひその年吉おらなるよほひといふ
 もして父よ墨面せらむのん婦く安永元年ハ
 ちよよのいさくは戸よのり同屋の人又み
 りよきのをくつ称を許よ身よとせし七十

解日る男そこころとく尋稱しつ三月の初日に
 してふもはり産るのされと面もさつこのは
 浪津町よりのもつこころとく産る面影に
 似されとも父よとくおとらんと是れ
 ころから戻りて酒田の人よおとせは
 云業よけきるにけよもといふこれハ年三郎
 中せし人よおとせはとさよたるりといふ
 へこの年吉なりといふ親子の名
 業しつ又ハ家よ健ひゆりぬ年三郎といふ
 名ハありしは江戸よあつちのいふ年三郎といふ

由きして御もつるなるをさうらひものをも落しして
 歸ふよらる事あはれむも秋田にいら
 云崎の邊よりありあはれむも秋田にいら
 てうごにるりてあはれむも秋田にいら
 中へこの速に人あはれむも秋田にいら
 金の名用ありとてあはれむも秋田にいら
 に落せし人歎かむも秋田にいら
 くはれむも秋田にいら
 礼をらむも秋田にいら
 せんていへく酒あはれむも秋田にいら

のまき尋ね遠ひあはれむも秋田にいら
 禮りあはれむも秋田にいら
 して後野北名禮をもちあはれむも秋田にいら
 たあはれむも秋田にいら
 中へこの速に人あはれむも秋田にいら

